

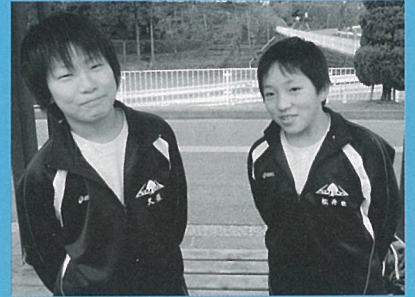
たかしま市
まちづくり
情報誌!

たかしまウオーカーズ

第10号
4・5月号



●発行/たかしま市民協働交流センター



◆目次

- 高島市の市民活動を分析する!! P1,P2
- 東北地方太平洋沖地震 義援金受付 P2
- きらきら☆NPO・市民活動
- ・アートサポートたかしま P3
- ・郷土料理伝承の会 P4
- ・NPO 法人子育て・子育てサポートきらきらクラブ P5
- まちづくりボランティア養成講座 たかしま塾 塾生募集
- 四コマ漫画 ○広報活動をお手伝いします! P6
- たかしま INFORMATION P7



(敬称略)

中川 ヒデ子 (マキノ)	宮川 洋子 (高島) 村上 節子 (高島) 長谷川 信子 (今津)	久保 文哉 (朽木)
古川 かづみ (マキノ)	藤本 圭子 (新旭) 千野 久子 (安曇川) 遠藤 鈴江 (新旭)	松井 敦弥 (朽木)
早川 智之 (今津)	垣貫 翔太 (マキノ)	大久保 智貴 (安曇川)
桂田 修平 (安曇川)	田中 公平 (高島)	上田 倫平 (マキノ)
正木 久登 (高島)	奥村 匡能 (今津)	松田 光生 (安曇川)
久保井 直弥 (マキノ)	大森 重希 (今津)	岩松 将史 (マキノ)
田中 彬智 (新旭)	土井 貴史 (新旭)	田中 健太 (今津)
		早川 真多 (今津)
井上 美紗都 (安曇川)	高木 福原 谷村 芳子 (安曇川) 淵田 恵美子 (安曇川) 坪内 君枝 (安曇川) 阿武 和子 (高島)	山田 巴 (高島) 長野 洋子 (安曇川) 浅野 純子 (安曇川) 中村 信子 (安曇川) 徳村 良子 (安曇川)

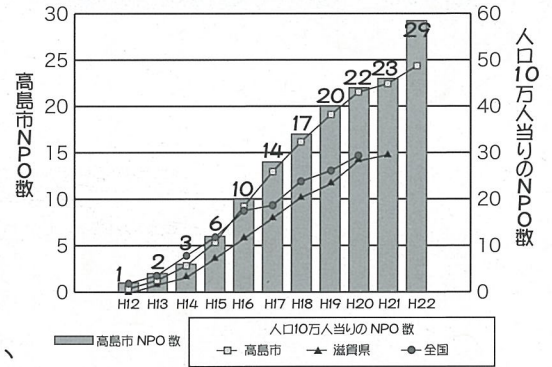
ご協力ありがとうございます。

高島市の市民活動を分析する!!

NPO法施行以降、高島市でも年々NPO法人の数が増えており、平成 23 年 3 月現在で、認証件数は 29 団体あり、まちづくり、保健・医療・福祉分野を中心に、様々な活動を行っています。人口 10 万人当たりのNPO法人数を見ると、51.9 団体（平成 22 年度）と、県内市域では最多となり（図 1）、任意の市民活動団体は、200 団体近くあります。また、合併時に設立された高島版地域自治組織、まちづくり委員会が、地域ごとに特色ある活動や地域課題の解決に取り組んでいることも高島市の特色です。

市民協働によるまちづくりの重要性が増していることから、今回市民活動団体の協力を得てアンケート調査を行いました。（配布 150 回答 51 団体）

（図 1）高島市と滋賀県、全国の人口10万人あたりのNPO数



～ 高島市の市民活動団体の特徴 ～

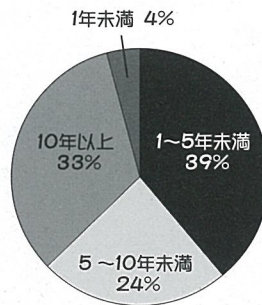
・活動年数、活動上の課題

(N= 回答数 以下同)

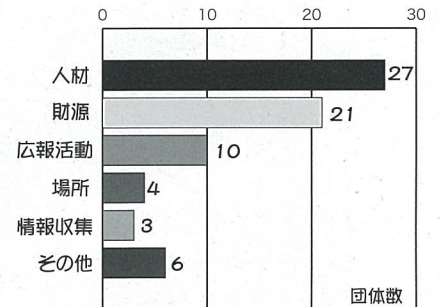
活動年数は、10 年以上と長い団体も多いのですが、1～5年未満が4割と最も多く、合併後、市民活動団体数が増加していることが分かります。（図 2）

活動をしていく上で困っていることとしては、半数以上の団体で「人材」と回答しており、「財源」、「広報活動」と続き、滋賀県内のNPOが抱える組織運営基盤に関する課題と共通します。（図 3）長く活動を続けてきた団体でも、高齢化に伴う担い手や、新規会員の不足、それに伴う活動の停滞が課題になっているようです。

（図 2）活動年数 (N=51)



（図 3）活動上の課題 (複数回答 N=50)

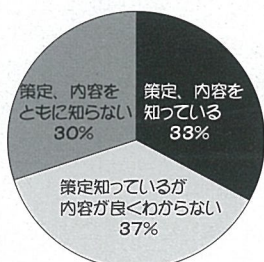


・協働の推進指針について

平成 20 年 4 月に、市民・行政・大学の三者協働で策定された市民協働のまちづくり推進指針については、策定されたことを知っている団体は6割以上ですが、内容まで知っているという団体は、その半数にとどまります。一般市民への普及、周知はまだ十分とは言えません。（図 4）

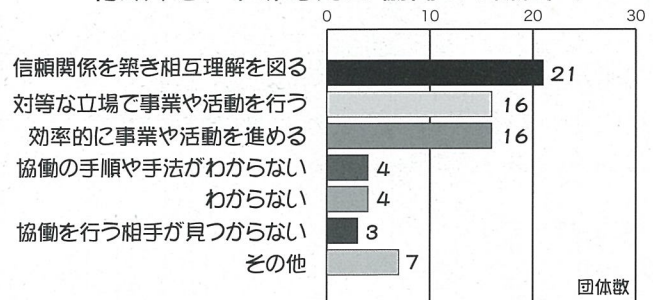
行政や区・自治会との協働における課題としては、「信頼関係を築き相互理解を図ること」が半数近くと最も多く、「対等な立場で事業や活動を行うこと」、「効率的に事業や活動を進めること」が3割以上と続きます。（図 5）

（図 4）協働指針について (N=49)



市民活動のまちづくり推進指針は、たかしま市民協働交流センターの Web サイトから高島市公式サイトの当該ページにリンクしています。

（図 5）行政や区・自治会との協働での課題 (N=45)

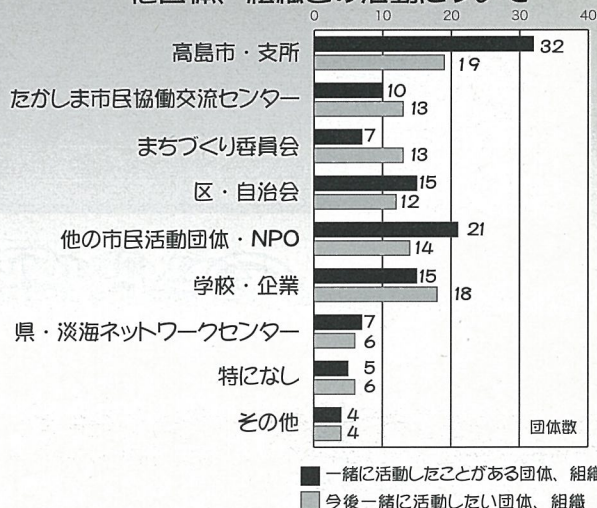


一緒に活動をしたことがある団体、組織では、高島市・支所、他の市民活動団体・NPO、区・自治会や学校・企業との活動比率が高くなっています。

協働交流センターとの活動は、10 団体 (20.8%)、まちづくり委員会との活動は、7 団体 (14.6%) とあまり多くありません。

今後一緒に活動したい団体、組織としては、4 割以上の団体が、高島市・支所、学校・企業と回答しており、他の市民活動団体・NPO、協働交流センター、まちづくり委員会、区・自治会と回答した団体も3 割前後になります。新たな協働のパートナーづくりが今後の課題になります。(図 6)

(図 6) 他団体、組織との活動について



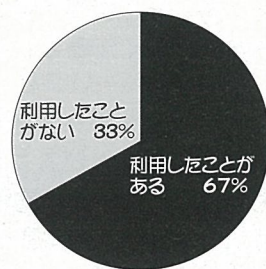
協働交流センターについて

アンケートに回答された団体の約 7 割が協働交流センターの利用実績がありました。(図 7) 具体的なサービス内容については、さらなる告知が必要と思われます。(図 8)

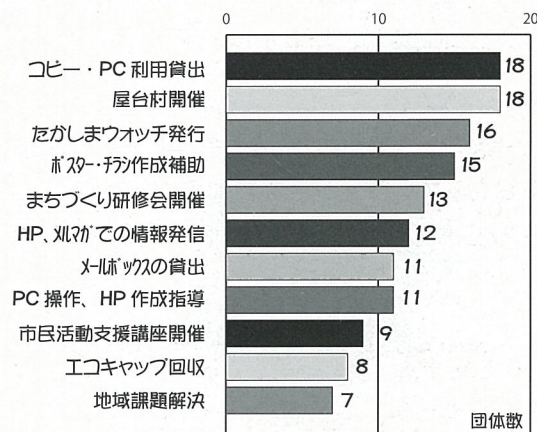
今後、協働交流センターに期待することとして、第 1 位に「財源の支援」、第 2 位に「高島市や支所、区・自治会、まちづくり委員会との連携、情報交換、交流の場の設置」、第 3 位に「情報発信のための支援」、「地域課題に関する調査研究、市への政策提言」などが挙げられました。

また、具体的な期待としては、「関係団体が手を組み、山村振興や自然環境の維持などの取り組みを総合的に行う必要があると思う」、「市政の長期的なビジョンが必要で、地域の課題解決に向かうための連携の場の提供、行政への働きかけなどについて期待する」といった意見がありました。

(図 7) たかしま市民協働交流センターの利用について (N=49)



(図 8) 協働交流センターのサービスで知っているもの (N=44)



アンケートにご協力いただきました市民活動団体のみなさま、ご協力ありがとうございました。

今回得られました貴重な声をもとに、行政や、その他の関連団体・組織と連携し市民活動拠点として更に使いやすいセンターになるよう努力いたします。



～ 東北地方太平洋沖地震 義援金受付中 ～

被災者支援、緊急物資調達、医療・復興支援にご協力下さい
受付場所：高島市役所・各支所 および 高島市社会福祉協議会

被災地の状況は刻々と変化します。その時々で必要とする支援内容は下記 URL にてアナウンスされますのでご協力をお願いします。

高島市社会福祉協議会
たかしまボランティアセンターブログ
高島市役所公式サイト
たかしま市民協働交流センター

<http://takashima-shakyo.or.jp/>
<http://borasen.shiga-saku.net/>
<http://www.city.takashima.shiga.jp/>
<http://tkkc.takashima-shiga.jp/>

高島市まちづくりメルマガでも情報提供します。



きらきら☆NPO市民活動

アートサポートたかしま

アートサポートたかしまは、湖西地域障害者生活支援センターわになるの事業の一環であるアート活動をサポートすることを目的に、2008年にボランティアグループとして、地元の有志5名とともに立ち上がりました。

わになるのアート活動は、障がいのある方の余暇支援活動として位置づけられており、毎月第一日曜日に実施されています。内容は、絵画や陶芸が主ですが、春には琵琶湖畔を歩き、拾い集めたお気に入りのものを描いたり、夏・秋には地域交流イベントを開催し、地域の方々と交流を図ったりしています。年度末には、1年の締めくくりとして展覧会も開催しています。最近では、京都造形大学の学生がボランティアとして数多く参加するようになり、時には友達、時にはライバルといった様子で、楽しく活動しています。

私達がアートサポート活動をする上で、心にとめていることが2つあります。それは『作品ができて上がるプロセスを大切にすること』ということと、『障がいのある人、ない人、子どもも大人も関係なく、ひとりの人として接する』ということです。

一見、画面いっぱいに塗りこめられた抽象的な絵でも、その中には隠されたストーリーがあります。そのストーリーに耳を、心を傾けたいと考えています。たとえ、絵ができて上がらなくても、「この場所に来て、皆とっしょに時間を過ごせて楽しかった」、「安心してさまざまな人と関われた」といった実感が大事で、その場の空気や仲間との会話が、絵の中にも盛り込まれていくように思います。

2010年12月には、展覧会のプレイベントとして「はじまりのアートを語る」というトークイベントを開催しました。京都造形大学子ども芸術学科長の水野教授が講師として、アート活動参加者の保護者の方がパネリストとして招かれ、トークセッションを行いました。このトークセッションの中で語られた保護者の方々の次のような言葉が、印象に残っています。

「心の移り変わりや成長に伴う葛藤をアートが癒し、安心させる材料になっている」「例えば、自閉症の子は行動範囲が限られているし、興味のあることとないことがはっきりしている。このアート活動では、自分の好きなことが存分にできるし、大勢の中が苦手でも、その時だけは絵に集中できるので、その場所に居られる」「障がいという少しいびつになりがちな部分を、アートが丸く整えてくれる、アートを通して成長している…」

私達も、何かを始める時、それを続ける時、一人では心細いものです。「わになる」という場所は、参加者にとっても私達にとっても、居心地の良い場所になってきていると実感しています。

これからもこの活動を続け、地域の住民の方にもたくさん参加していただき、また、作品を見ていただき、障がいのある人もない人もアートを通してつながり、誰もが暮らしやすい地域になるように取り組んでいきたいです。

「アートサポートたかしまボランティア募集」

一緒に活動して下さる方を募集しています。絵画、陶芸、工作などに興味がある人、利用者のみなさんと一緒に制作しながら楽しい時間を過ごしませんか？

▶ 去年のイベント



はじまりのアート展
「わになる」VOL.5

2010年12月5日(日)⇒12日(日)
開演時間 10:00⇒17:30(会期中無休)
展覧会初日はワークショップも開催します!
会場 ギャラリー一風乃舟 京都市東山区宇治橋1-1-10
主催 社会福祉法人わになる 湖西地域障害者生活支援センター 有志の有志
共催 わになるこども芸術学科長 京都造形大学子ども芸術学科長
アートサポートたかしま
後援 湖西地域障害者生活支援センター 京都市東山区宇治橋1-1-10



お問い合わせ

〒520-1522

高島市新旭町新庄 487-3

電話・FAX

0740-25-8276

メール: shintel8276@yahoo.co.jp

担当: 川島 和久



きらきら☆NPO市民活動



郷土料理伝承の会



郷土料理伝承の会では昔から伝わる郷土料理を今の若いお母さんや子ども達に伝えると共に、料理の背景にある風習や地域独特の味を次世代にバトンタッチすることを目的に活動されています。

活動当初は、【安曇川女性ネットワークゆう】という複数の女性団体がまとまった婦人連合でしたが、合併と同時に参加団体の数が少なくなりました。そんな時、安曇川地域まちづくり委員会の事業で郷土料理を広げてもらえないかと声がかかり、参加団体の中から新しく活動を開始されたのが「郷土料理伝承の会」です。発足は平成 17 年、メンバーは現在 20 名で活動されています。



メンバーが 5 年の歳月をかけて郷土料理を調べたり、実際に調理したりし、写真や分量などこと細かに記入されたレシピと共に会員のアンケート結果をまとめた約 80 ページからなる冊子を「わがまち安曇川のおふくろの味」として発行されました。この冊子では 100 種類以上の郷土料理を掲載し、当初 100 部発行されましたが、テレビやラジオ・インターネットで取り上げられ話題となり、その後 500 部を増刷されすべて完売いたしました。問い合わせも多く、「前は高島に住んでいた。漬物が食べたいので送ってくれないか？」と九州より電話が入るなど冊子はとても好評です。発行された冊子はインターネットでも閲覧することができます。 <http://www.takashima-shiga.jp/ofukuro-aji/>

今後の活動では、今掲載されている郷土料理に手を加えることや、その他の郷土料理を載せた冊子をつくろうと計画中です。



また、各中学校より郷土料理を生徒に教えて欲しいと要望があり、去年の 11 月頃には調理実習のお手伝いに行かれました。その際には、伝統的なえび豆や鮎の醤油炊き・焼き鯖ソーメンなどを班ごとに作り、生徒達は「おいしい」と郷土料理を堪能したそうです。その他にも、高校のクラブ活動や、男の料理教室、その他公民館などの講師やサポーターとして幅広く高島の郷土料理を広めておられます。

(たかしま市民協働交流センター はね丸)

郷土料理伝承の会の声

現在では、核家族が増え、ふるさとの味はなくなりつつありますが、もっと地元の方達に郷土料理を伝えていけるように頑張りたいと思っています。そうしたことから今後は、調理したものや真空パックに入れて、市内の方はもちろん市外の方にも食べていただける様な工夫もしていきたいと考えています。

もともと郷土料理とは、冠婚葬祭の味です。うれしい時も、悲しい時も食べるのが郷土料理の味です。今では、家庭で冠婚葬祭をしないので、企業の味が家庭の味だと勘違いしていると思います。ましてや、近くのスーパーに行けば何でも売っている時代になり、おふくろの味はスーパーの『お袋の味』に変わってしまいました。

おふくろの味の料理には分量がありません。言えないのです。なぜかと言うと、おふくろの舌加減で決まるからです。それが「うちの家の味」になり「ふるさと・郷土の味」になります。



お問い合わせ

〒520-1201
高島市安曇川町上古賀 834
電話：0740-20-1126
担当：入江 幸子

わがまち安曇川のおふくろの味に掲載されている一品を紹介します!



とってもおすすめ! とってもおいしい!

イサザ豆

材料

イサザ	200g
ゆで大豆	500g
砂糖(ざらめ)	2/3 カップ
醤油	1/2 カップ
酒	1/2 カップ
みりん	大さじ2
(梅干し 2個)	

作り方

~その1~

- ①大豆は一晩水に浸け、柔らかく茹でる。
- ②魚は洗い、水を切っておく。
- ③鍋に醤油、砂糖、酒を入れて煮立てる。イサザを入れ梅干しも入れ、沸騰し魚が白っぽくなったら豆を入れ、落とし蓋(アルミ箔を利用)をして、再度、煮立てて沸騰したら弱火で 20 ~ 30 分煮る。
- ④煮汁が少なくなるとみりんを入れ、煮汁を全体からめ鍋返しをする。(鍋返しは、箸を使うと身が碎けるため箸を使わないこと)

~その2~

- ①大豆は一晩水に浸け、柔らかく茹でる。
- ②鍋に醤油、砂糖、酒をいれ煮立てた中に、イサザを入れる。沸騰したら火を弱め梅干しを入れ弱火でゆっくり煮る。
- ③魚に味がつき煮汁が無くなれば、ボウルで受けたざるのなかに丁寧に移す。
- ④③の煮汁を鍋に入れ水煮の大豆をいれて煮る。
- ⑤②と④を合わせる。(魚の頭がちぎれないように扱う)

きらきら☆NPO・市民活動

「であい」「せいちょう」「たびだち」

NPO 法人子育て・子育てサポートきらきらクラブ

NPO 法人子育て・子育てサポートきらきらクラブは、子ども達が社会に積極的に参加できる様、様々な事業を取り入れ、保護者がゆとりを持ち子育てができるお手伝いをされている団体です。代表者の和治 佐代子さんよりお話をお聞きしました。

私達が法人活動を始めたのは平成19年のことです。それまでは社会福祉協議会運営の学童でした。法人運営になるまでの学童は平成13年〜18年の間に十数名から百名を超える利用数になっていました。そんな頃、預かっていただいていた児童が中学生になると言うことで社協運営のままでは「預かれない」という現状と、保護者の「引き続き預きたい」と言う要望にこたえられないという問題が発生しました。

当時の指導員仲間と話し合い、現状を打開するため、一歩を踏み出そうと、社協のご協力ご指導を得、保護者の同意を得て指導員で法人を立ち上げ「NPO 法人子育て・子育てサポートきらきらクラブ」が誕生しました。

そして、障がい児童と健常児童が一緒に過ごす学童を開きました。ですが、県下でも共生して同じ施設に預ける場所は珍しく、活動当初は運営方法や子どもの安全面がとても心配だったことを今でもよく覚えています。しかし、健常児童の話聞いて障がい児童から言葉が出るようになったり、一緒になってボール遊びをしたりと子ども達の成長やおもいゆりに大変驚かされました。

子ども達には多くの人と出会い、感性を養って貰いたいことから、ハサミを使って紙切りパ

フォーマンスをする方を招いたり、大自然の中で遊んだりと様々な手法を取り入れていきます。そして日常的に小学生から高校生の児童・生徒がふれ合うので、学校生活では味わえない縦の繋がりを知り協調性を学ぶことができます。



成長

現在スタッフは18名で、いろんな経験を持っている方ばかりで、ここを家族の様にしたかったこともあり年齢層はバラバラです。そして、毎月研修会を実施し、『発達障害』や『遊び』など保育に関する勉強を行っています。昨年には、はじめて避難訓練を実施し、いざと言う時の為に子ども達の身を守る訓練もおこないました。

クリスマスにはホールに集ま



学び

り映画鑑賞をし、新年会ではピンコ大会や出し物の発表会など子ども達と一緒に楽しんでいきます。子ども達は、夢や将来に向かってとてもきらきらと輝いて日々成長しています。

これは地域の方々のご協力があったことだと思えます。古いテレビを使っていたところ「それでは観づらいでしょ？」と大型テレビを寄付して下さい方がおられます。また、高島高校のJRCクラブ（ジュニアレッドクロス）のメンバー達は毎月、子ども達と遊んだり、周



遊

辺の清掃活動などのお手伝いをしてくださいます。この活動も大変長くやっていただき、熱心な生徒さんや先生方には本当に感謝しています。この他にも沢山の皆さまに支えられ地域の温かさを感じます。

こうしたことから子ども達は、地域の子でもあり社会みんな育てて、地域に帰してあげたいと思っています。そうすることでより良い地域づくりが実

現できるのではないかと、思います。現在の課題は、きらきらクラブを知らない方々にどの様に参画していただけるのか？...もっとPR活動を考えなければいけません。

多くの子ども達が「であい」「せいちょう」「たびだち」を繰り返す中で、それぞれが個々の力に合わせて社会で責任がもてる大人になれる様一生の財産を一緒につくっていただければと思っております。



仲間



〒520-1611
高島市今津町弘川 204 番地
TEL/FAX 0740-22-1226

ツッパリはつらいよ



広報活動をお手伝いします!

《《 広報活動の手段 》》

市内向け

情報誌

(隔月発行 18,000部)

携帯メールマガジン
(配信数 185件)

市外向け

ツイッターによる
市外への情報発信
も試行中です。

まちづくり Web サイト

お気軽に相談して欲しいルン。
高島をもっと盛り上げルンよ!



びわ湖源流の郷 まちづくりボランティア養成講座

“たかしま塾” 塾生募集

全国のまちづくり先駆者に学び、熱いディスカッションを交わしながらお互いに学び合うものです。

まちづくりの意義と喜び、地域の課題の発見、企画、実践への意欲とスキルを学び、養うことをねらいとします。

回	期間	内容
1	5月21日(土)	●開講式、オリエンテーション まちづくりって何? 神戸学院大学教授 今西 幸蔵
2	6月25日(土)	●公開講座 地域・文化資源の活用方法 千葉県館山市 池田恵美子 まちづくりと市民参画の手法 聖徳大学教授 福留 強
3	7月16日(土)	●事例研究 大阪狭山市 鳥山 健 狭山池まつりを核とした市民による学びのまちづくり
4	8月20日(土)	●事例研究 京都市 吉村 文彦 まつたけ山復活させ隊の活動
5	9月10日(土)	●事例研究 京都市亀岡市 佐藤 理恵 町家を基地にまちづくり
6	9月24日(土)	●ワークショップ 神戸学院大学教授 今西 幸蔵
7	10月15日(土)	●公開講座 事例研究 地域づくりの経営感覚 佐伯市 宮明 邦夫 講演 ど田舎のもつ逆転の発想 佐伯市 矢野 大和
8	10月と11月の中旬	●フィールドワーク 亀岡市駅周辺地域と京都市岩倉(まつたけ山復活させ隊の活動)のどちらか希望する日
9	11月26日(土)	●事例研究 鳥取県北栄町 福光 正子 地域とともに歩む
10	1月14日(土)	●ワークショップ まとめ 神戸学院大学教授 今西 幸蔵

注: 開催日 並びに 内容は変更になることがあります。

主会場: 安曇川公民館、今津東コミセン など

開催時間: 19時~21時(フィールドワークを除く)

募集人員: 30人

参加費: 一般5,000円/学生2,000円(全10回)

募集期間: 平成23年5月20日(金)まで

応募・問合せ先: たかしま市民協働交流センター TEL 0740-20-5758

注: たかしま塾は、高島市の平成23年度「協働事業提案制度」として、NPO法人湖西生涯学習まちづくり研究会どろんこが 高島市との協働事業として開催するものです。たかしま市民協働交流センターが運営をサポートします。

横の長さ 85mm

次号のたかしまウオッチ第11号
発行は6月15日前後 締切り 5月16日(月)

規格: 縦の長さ 28mm×横の長さ 85mm
一色刷り

掲載料: 1か月(1発行限り) 10,000円

お問い合わせ

たかしま市民協働交流センターまで [連絡先7ページ下]

募集 広告

縦の長さ 28mm

たかしま INFORMATION

びわ湖のほとりで自然観察をしませんか? 『健康スポーツ教室』 会員募集

びわ湖をのんびりウォーキング!

早春のびわ湖岸の散策

日 時: 4月25日(月) 10:10~16:00
 参加費: 500円
 コース: 近江今津駅 ~ 新旭水鳥センター ~ 針江浜 ~ 新旭駅
 (約7キロ)
 持ち物: お弁当・水筒

お気に入りの植物標本づくりに挑戦しましょう!

びわ湖と里山を結ぶハイキングへどうぞ

日 時: 5月23日(月) 10:10~16:00
 参加費: 500円
 コース: 近江今津駅 ~ 今津松並木 ~ 波爾布神社 ~ 日爪北谷
 「もりっこ」 ~ 新旭駅 (約8キロ)
 持ち物: お弁当・水筒

主 催: あいば地区自然観察グループ
 申し込み: (社)びわ湖高島観光協会
 TEL: 0740-22-6111
 締め切り: イベント日の5日前まで
 その他: 動きやすい服装・靴で参加して下さい

「楽しく健康を維持したい!」そんな方たちのためのスポーツプログラムです。

毎月第1週目は、景色を楽しみながらのノルディックウォーキング、2週目以降はストレッチなどの軽い運動で体を動かします。

若くて元気なインストラクターが楽しく指導致します。

安曇川会場
 開催日: 毎週水曜日 10時~11時半
 (※1週目は10時~14時)
 会 場: 安曇川総合体育館 小体育室

今津会場
 開催日: 毎週水曜日 13時半~15時
 (※1週目は10時~14時)
 会 場: 今津上体育館

参加費
 年会費(保険料など): 3千円
 月会費: 4千円
 ※年会費と月会費が必要です

お問い合わせ先
 NPO 法人 TSC
 電 話: 0740-22-9090
 メール: info@tsc-presents.jp



高島市まちづくりメールマガジン



たかしま市民協働交流センターでは、高島市のまちづくりに有益と思われる情報を、あなたの携帯電話にメールで配信しています。

また、携帯メールや携帯インターネットは、災害時の通信手段として信頼性が高いと言われておりますので、万一 大規模災害が発生した場合、本メールマガジンを使って市内の災害情報・避難情報・救援情報などを配信する準備も進めています。

配信は毎週金曜日
夕方送信!!

メルマガ購読 申し込み方法

1. 右のQRコードを携帯で読み取って空メールを送信
2. 自動返信メールの内容に従って指定部分をクリック
3. 登録完了メール受信 → 登録完了



※注
 メルマガの購読は無料ですが、パケット通信料は各自で負担ください。
 メール受信拒否を設定されていると登録できません。
 @nishi-biwako.net を受信許可にしてください。



PCメールアドレスで登録ご希望の方は「たかしま市民協働交流センター」のWEBサイトからお申し込みください。
<http://tkkc.takashima-shiga.jp/>

配信希望情報受付中

イベントや行事などの告知内容をお知らせください!!

たかしま市民協働交流センター

たかしま市民協働交流センターは、市民活動、NPOを応援しています。

- ◆ 〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼1-4-1
(今津東コミュニティセンター内)
- ◆ TEL: 0740 (20) 5758 FAX: 0740 (20) 5757
- ◆ URL: <http://tkkc.takashima-shiga.jp/>
- ◆ E-mail: webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
- ◆ 開館時間: 10時~19時
- ◆ 休館日: 日曜日・祝日・年末年始(12/28~1/3)

ごあいさつ

情報誌を担当していますね丸です。この度、一身上の都合により退職させていただきます。
 「情報誌を見ているよ」の温かい声に支えられ、10号の発行までできました。本当に感謝しきれないばかりです。

次は陰ながら高島市を盛り上げていきたいと思っております。(O) / マサ



情報誌やメルマガであなたの活動を紹介します。左記へ連絡ください。



この印刷物は、古紙パルプを配合した再生紙と大豆油インキを使用しています。